16 平和と公正をすべての人に　17 パートナーシップで目標を達成しよう

グリーンコープ共生・平和長崎自転車隊
第37回共生・平和自転車隊　第32回共生・平和銀輪隊

「平和」への祈りを胸に長崎へ
未来へつなぐ「不戦」の誓い



自転車隊の頑張る姿に、応援の声にも力が入ります。



肥前鹿島駅前では、グリーンコープ生協さがの組合員が、給水の準備をして参加者を迎えました。


暑い中、「不戦」のゼッケンを背に隊列を組んで進む自転車隊。


8日早朝、たくさんの応援の声に見送られ、福岡県柳川市を出発。



今年日本は戦後81年を迎えましたが、世界では今も戦禍が絶えず、多くの人々が傷つき、生命を奪われています。

グリーンコープは、「生命（いのち）」を何よりも大切だと考え、次の世代へ伝えていくために、毎年「共生・平和長崎自転車隊」（以下、自転車隊）の取り組みを行っています。近年は気候変動による猛暑が続き、自転車の走行距離やルートを見直しながら実施してきました。

厳しい暑さの中、参加者はたくさんの声援を受けて、二日間にわたる長崎までの道のりを全員完走することができました。

参加者
自転車隊　1～5班　29人
銀輪隊　1～5班　25人

出発式挨拶



長崎へ向けて（一部抜粋）

一般社団法人　無名舎こどもの家
代表理事　加藤 裕子さん

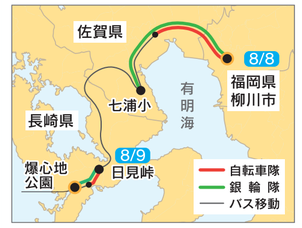
私たちは戦争はいやだ、世界中の戦争をやめてほしいと願っています。でも世の中には、武器をたくさん売ってお金儲けをしようという人、よその国の土地や資源を奪って自分の国を強くしようという人もいます。強い武器を作ったり、基地を広げる予算を増やしたり、政府のやり方や戦争に反対する人を監視する法律を作ろうとか、憲法を作り変えようという話がどんどん進められています。

戦争は人と人が殺し合い、勝っても負けても大変な被害だけが残ります。私たちは、戦争はしない、戦争はやめようと強く言いたいと思います。今日から二日間、長崎の原爆や戦争で命を奪われた人たち、今もウクライナやガザやイランへの爆撃で亡くなっている子どもたちやお父さんお母さんたちの冥福を祈り、これから若いあなたたちが戦争で命を奪われることが無いように、おいしいご飯を食べて、勉強して、友達と遊んで、安心して眠れるように、不戦をアピールしながら、暑さもきつさも受け止めながら、長崎までみんなで一緒に走りましょう。

共生・平和長崎自転車隊とは

長崎に原爆が投下された日に合わせ、毎年8月8日～9日に、福岡県の柳川市から長崎市の爆心地公園を目指して「不戦」のゼッケンを背に自転車で走行します。爆心地公園では「平和のつどい」を開催し、原爆投下時刻の11時2分に参加者全員で黙とうを捧げます。

走る人、応援する人、支える人など、多くの人が関わる、グリーンコープの根幹となる平和の取り組みです。



自転車隊
小学生から大人までの組合員とその家族。約9km～39kmを走る。

銀輪隊
中学生を中心とした組合員の子ども。約67kmを走る。

子どもたちの未来のために　No.217

自然エネルギーでつくる豊かな社会 ～子どもの寝顔から紡ぐ未来～

子どもの寝顔を見ながら、この子たちのために何ができるか考える。私の原動力はそこにある。願うのは「生命（いのち）と共存する自然エネルギー主導の社会」だ。それを保障する最大の安心は原発がないことだろう。事故のリスクや行き場のない放射性廃棄物が増える心配もない。地域ごとに適したエネルギー（電力）を生み出して消費する仕組みが広がれば、災害やエネルギー危機への備えになり、地域間の支え合いも生まれる。

風や太陽、水など自然の恵みを活かして、共に生きる知恵を育てること。それこそが持続可能で豊かな社会への歩みだ。私たちにできることは、グリーンコープでんきのような再生可能エネルギーを選ぶこと。そして子どもと一緒に仕組みを学び、未来を自分たちの手でつくる感覚を持つことだ。

小さな選択の積み重ねが生命（いのち）の循環を守り、安心な環境を形づくっていく。まずは身近な人と、エネルギーについて話すことから始めてみよう。

グリーンコープ共同体組織委員会

1日目の夜 被爆体験者の講話を聴きました



三瀬 清一朗さん

当時、私は伊良林小学校（旧伊良林国民学校）の5年生で、爆心地から約3．6kmの自宅で被爆しました。学校は救護所になり、1290人の人が搬送されてきました。しかし、薬も手当もなく多くの人が亡くなり、グラウンドは、「死体焼却場」と化しました。敗戦を知った時、私は「負けてよかった」と思いました。これで空襲を恐れず安心して眠ることができると思ったからです。

平和とは、当たり前の生活ができることです。そして一番大切なものは命です。今日私が皆さん一人ひとりに預けた「平和という花の種」を、今度は皆さんが広めていってください。

伊良林小学校との交流

長崎市立伊良林小学校は、爆心地にほど近い場所にあり、原爆投下後に救護所となっていた学校です。自転車隊では、2016年から児童との交流を続けています。今年も自転車隊と伊良林小学校の代表が互いに平和への思いを伝え合いました。




ベランダで手を振る全校児童に見送られながら、爆心地公園へ向かいました。


一番の難所「日見峠」。力強くペダルを踏んでゴールの爆心地公園を目指します。

自転車隊代表
小学6年
菊地 果歩さん

故郷の山は緑を育み、川は静かに流れ、季節はめぐり、新しい命をつないでいます。その姿は、「平和をあきらめない」という大きな願いを、私たちに語りかけてくれているようです。やさしい言葉をかけること、相手を思いやること、命の大切さを伝えることが、いつか大きな希望の花を咲かせると信じて、平和の種をまき続けます。

自転車隊代表
小学5年
大隈 恵香さん

「平和な世界」

テレビで見た　小さな子どもの涙をためた瞳
「平和を守って」とうったえているようだった
平和を守るために　私たちができることって何だろう
まずは　一人でも多くの人が　戦争は絶対にしてはいけないと強く思うことだ
そしてみんなが　自分と周りの人たちを大切にしたら　きっと平和な世界に近づくはずだ

銀輪隊代表
中学3年
山口 英大さん

現在も世界で戦争が起こっていて、たくさんの人が苦しんでいます。私たちがすぐに戦争を止めることはできません。しかし、一日でも早く戦争が終わるように、平和の大切さを伝え続けることはできます。この活動も平和だからこそこうして仲間と安心して走ることができました。これからも平和の大切さを考え伝え続けていきたいです。

平和のつどい

主催：共同体組織委員会



8月9日、爆心地公園で、参加者全員で黙とうを捧げました。
走行した子どもたちからの、平和へのアピールを紹介します（一部抜粋）。

共生・平和長崎自転車隊内部学習会

2026年度「共生・平和長崎自転車隊」の取り組みを前に、共同体組織委員会は、グリーンコープ発祥の地である「無名舎こどもの家」[以下、無名舎]を訪問し、グリーンコープの歴史を学び、「平和」と「不戦」について考える学習会を行いました。学習会の要旨と、無名舎発足当初から関わっている武田孝子さんの話を紹介します。

※グリーンコープ連合初代会長の故 武田桂二郎さんが自宅を開放して1972年に開設した託児所（当時は「柳下村塾託児所」）。



講師　東原 晃一郎さん
グリーンコープ共同体 顧問

グリーンコープが大切にしていること 共生・平和ということ

なぜ自転車なのか

人間は、生きものの中で大脳を一番大きく発達させて、今日の社会と世界をつくってきました。大脳は知を司る部分で、物や事、文化もつくっています。一方で、原発や核兵器、武器をつくり、戦争を起こすという判断をします。大脳だけで考えることは、武器をつくったり戦争を起こしたりすることにつながってしまいます。それは、脳が根元である身体とちぐはぐになって、生きものの身体であることを忘れてしまっているからです。

脳と身体をつないでいるのが脳幹です。つまり脳幹は、心と身体をつないでいるのです。自転車に乗ってハンドルを操作する、ブレーキをかけて足を地面につけて止まる、これらはすべて脳幹が指示を出して行っています。武田桂二郎さんが無名舎で自転車を取り入れたのは、脳（心）と身体をつなぎとめるため、できるだけ早い時期に子どもたちの脳幹に刺激を与えて、よく働くようにしたいと考えたからです。

自転車隊をグリーンコープみんなの取り組みに

1984年に、武田桂二郎さんが無名舎の子どもたちや親に呼びかけて、自転車隊の最初の形であるポン・ファイヤー・アピール（不戦サイクリング）が始まりました。「不戦」と書いた厚紙を肩にかけ、11人が参加して2泊3日の自転車の旅に出かけました。以降毎年、盆と正月に熊本・福岡・佐賀まで走り、第7回まで続きました。

そして、グリーンコープ連合が誕生した1988年、みんなで長崎に行こう、平和集会をしようと、「第1回長崎サイクリング」という形で「共生・平和長崎自転車隊」が始まり、現在まで続いています。

あらためて「平和」と「共生」を考える

「平和」とは、争いや戦争がないこと、「共生」はそこに向かう人間の営み、手続きだと思っています。人間と戦争は切っても切り離せないものだから仕方ないと高いところからものを見るような言い方や、あきらめの心を私たちの中からなくし、戦争が起きる原因をなくす責任と努力は可能です。それでも争いや戦争があった時、自分を守ること（正当防衛）は正しいと認めます。けれど同時に、戦う自分を否定し、争いや戦争が起こった条件をどうやってなくせるかを考えつづけます。

グリーンコープには「四つの共生」という基本理念があります。「自然と人」「人と人」「女と男」「南と北」のうち、三つは生むものと生まれたものとの関係を表わしています。自然から生まれた人、女から生まれた男（生まれる前はすべてメスだった）、南から生まれた北（アフリカで生まれた人類が世界中に広がった。しかし歴史の大半は、常に生まれたものが生んだものをないがしろにしています。そうやって地球や人類を滅ぼす方向に向かうのではなく、「共生」、生まれたものが生んだものをないがしろにしないことを考えていけないでしょうか。

現在、世界で生じている戦火が熄むためには、取り引きではなく、「共生」という関係のしかたに基づく真の解決が必要だと思います。


陽の光が差し込み明るい無名舎の保育室。学校帰りの子どもたちが自由に過ごす中、話を聞きました。



戦争の記憶と平和

武田 孝子さん
［赤ちゃんからお年寄りまで］の託児所、柳下村塾託児所（現在の無名舎）を故 武田桂二郎さんと共に設立した。

私の青春は、戦争のために何もありませんでした。生まれた頃に満州事変が起こり、その後日中戦争、小学校に入ると太平洋戦争が始まりました。小学校時代は敵を殺す練習をさせられました。20歳までは、まともな暮らしができなかったと憶えています。

今97歳になりましたが、いつの間にこんなに年を取ったのだろうと思います。いろんなことができなくなってきましたが、学校が終わると無名舎にやってくる子どもたちが遊んでいる姿を見られることが、最大の最高の幸せです。子どもが生きているということは、いのちがつながっているということです。エネルギーを全部使って遊んでいる子どものいのちと共に私のいのちがある、そういう気がします。

原発のない未来をつくろう　ひろがれ！私たちの発電所

（一社）グリーンコープでんき

2026年6月の売電量

神在太陽光発電所 88,750kWh 定格出力1,057kW（309世帯相当）	若宮物流センター太陽光発電所 4,301kWh 定格出力47kW（14世帯相当）
平池水上太陽光発電所 125,938kWh 定格出力1,260kW（368世帯相当）	広島物流センター太陽光発電所 4,071kWh 定格出力47kW（14世帯相当）
深年太陽光発電所 105,683kWh 定格出力1,550kW（453世帯相当）	グリーンコープやまぐち生協西部地域本部太陽光発電所 4,906kWh 定格出力54kW（16世帯相当）
※オンサイトPPA太陽光発電所 39,067kWh 定格出力795kW（232世帯相当）	グリーン未来ソーラー 21,387kWh 定格出力376kW（110世帯相当）

※グリーンコープ関連の事業所屋根上に設置した太陽光発電設備で発電した電気を、送配電網を通さずに直接その施設で利用しています。

組合員の出資金で原発フリーの電気をつくります
「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いを、私たちの力で実現させましょう。
グリーンコープ・グリーン電力出資金
10,603人　1,087,021,000円（2026年7月27日現在）

残留放射能検査結果 (184)

2026年7月に279品目の検査をしました（一部7月以前の測定分を含む）。すべて検出限界値未満でした。

最新の放射能検査結果は、ホームページ「放射能検査の取り組み」でご覧ください。
https://www.greencoop.or.jp/radiation/